

※※掲載しているイベント・休館日などの情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて中止または変更になる場合があります。最新の情報は図書館ホームページをご確認ください※※



〒中央図書館 Tel 24-1507

【11月の休館日】

3日 困祝・7日 月・14日 月・21日 月・23日 月
24日 困・28日 月
イベント情報、資料検索・予約は図書館HPで▶



新着図書のお知らせ

児童書

ONE-PIECE FILMRED 尾田栄一郎著
SNS100 物語 にかいどう青著
人狼サバイバル【12】 甘雪こおり著
大研究！こだわりと情熱！かちわり氷 工藤ケン漫画
情報通信のひみつ おかだたかはる漫画



一般書

人間の業 百田尚樹著
老後の心配はおやめなさい 荻原博子著
殺人者の白い檻 長岡弘樹著
レッドクローバー まさきとしか著
乱鴉の空 あさのあつこ著
人は死ねない 奥真也著
掬えば手には 瀬尾まいこ著

◆こども図書館

(午前10時30分～)

5日 月 おはなし玉手箱

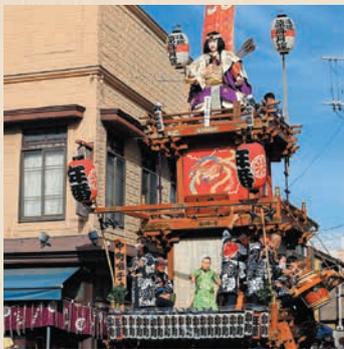
10日 困 ひよこのおはなしかい

19日 月 むかしむかしのおはなし会

◆郷の本棚やさ図書館

(午後2時30分～)

12日 月 おはなしフレンズ



▲中町の山車

時の記憶

シリーズ 204

「常陸國總社宮祭礼の獅子・山車・ささら行事」

圖文化振興課（支所）

TEL 43-1111（内線 1455）

昨年10月、石岡市に新たな指定文化財が誕生しました。今年3年ぶりに開催された常陸國總社宮例大祭（石岡のおまつり）で巡行される「常陸國總社宮祭礼の獅子・山車・ささら行事」です。今回はその中から山車の特徴を紹介します。

石岡の山車は、二層から三層構造で、最上部には依り代となる人形が乗りまします。中層が踊り舞台となり「石岡獅子」と総称される山車囃子の演奏に伴い、踊り手が踊りを行います。いわゆる「江戸型」山車ですが、通常の江戸型山車では、太鼓・笛・鉦といった演奏はすべて舞台上で行われ、踊りは補助的になっていきます。それに対し石岡では、舞台上は踊りと笛、鉦の演奏だけで、太鼓は側面に組み立てられた場所演奏されます。つまり、石岡では、踊りが主になるように、江戸型山車の改造を行っているのです。

このような「石岡的な変容」を行っている山車に、きわめて独自の幌獅子や、伝統のささらが融合しているのが特徴で、地域固有な祭礼文化へと発展を遂げています。また、土浦や小川、柿岡など、周辺の地域のお祭りや祭囃子にも影響を与えているのも特徴で、独自のお祭り文化圏を形成していて、この地方を代表する重要な行事と言えます。

文芸いしおか

いしおか俳句同好会

百葉に勝る禁煙富士登山
 ままごとの母は儉約芋の飯
 雨しづく勇む法被の神輿かな
 秋澄めり空半分は紫峰立つ

やさど俳句会

連作を避けて菜園大根蒔く
 大藪の間コスモス明かりかな
 何もせぬ釣瓶落しの日かな
 台風の備へ空振り祈りつつ

いしおか川柳会

よぼよぼと歩く愛犬お出迎え
 ピエロにも主役夢見る泣き黒子
 将来の希望丈夫な足と腰
 戦時中グリムも聴けぬ我が世代

石岡俚謡会

星は満天 煌めく夜を 独り占めして 露天風呂
 揃い半纏 町名入りで 競うお囃子 乗る舞手
 暑い暑いと 草刈りすめば 待ってましたと 生ビール
 加山雄三 夜空の星で ロン毛ミニスカ 踊った日
 悔いを残さず 暑さにめげず さらに世のため 人のため
 秋になったら 深夜は楽し 虫の集会 大合唱
 白いうなじは 仄かな色香 秋の和服が 似合う女
 残る暑さも 漸く過ぎて 空に見つけた 秋の雲

投稿作品

お彼岸に父母に会いたく墓参り
 縁に差す温もり恋しくなりし日よ背なを丸めて新聞広ぐ

- | | | | | |
|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 小川 つと夢 (貝地) | 山崎 景子 (瓦谷) | 萩原 清 (宇治会) | 安部 正一 (東石岡) | 香俱耶姫 (南台) |
| 小泉 ちよ子 (東光台) | 鈴木 恵子 (瓦谷) | 松崎 淑子 (細谷) | 石塚 芳華 (石岡) | 坂下 蜻蛉 (国府) |
| 田端 俊行 (三村) | 山口 美津子 (総社) | 萩原 清 (宇治会) | 岡野 はつ子 (小幡) | 醍醐 正夫 (東大橋) |
| 若色 茂 (山崎) | 田村 こまくさ (鹿の子) | 秋野 もみじ (南台) | 小川 義隆 (大増) | 若色 茂 (山崎) |
| 助川 浩史 (府中) | 篠原 美千代 (国府) | 田邊 一夫 (若松) | 鈴木 君江 (山崎) | 田邊 一夫 (若松) |

第40回

「石岡三曲協会」

私たち石岡三曲協会は、箏(こと)・三絃(三味線)・尺八などの楽器による合奏を中心に活動しています。

演奏の場としては、石岡市文化協会が主催する文化祭やまちの文化一日体験をはじめ、市内の各学校や市外の会場でも演奏をおこなっています。

右は「尺八」演奏の写真です。尺八は鎌倉時代に禅宗の一つである「普化宗(ふけしゅう)」で用いられ、普化宗虚無僧の「法器(ほうき)」とされ、一般の人は吹くことが出来ませんでした。その後、江戸中期に町人に普及し、現在の形になったと伝わっています。

協会では随時、会員を募集していますので、興味のある人はご連絡ください。

年会費：2,000円

〒石岡三曲協会(川村) TEL 22-2597

文化協会だより



▲虚無僧



▲文化祭(尺八演奏)